



おいしい笑顔をお届けします

シマダヤグループ
社会・環境報告書

2020



シマダヤ株式会社

人事総務部

〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11

TEL:03-5489-5511/FAX:03-5489-5507 <https://www.shimadaya.co.jp>



見やすく読みましがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) で認証された適切に管理された森林からの原料を含む、FSC認証紙を使用しています。

グリーンプリンティング認定制度を取得している工場印刷しています。

印刷時に有害な物質を含む浸し水が不要な、水なし印刷を採用しています。

シマダヤ株式会社は、政府主催の豊かな低炭素社会を目指すキャンペーン「Fun to Share」に参加しています。



おいしい笑顔をお届けします

これは、私たちシマダヤの経営コンセプトです。
たくさんの人に「おいしい!」の笑顔をお届けしたい。
私たちシマダヤは、「安全・安心」でおいしい商品を
皆様にお届けするために、社員一丸となって、
その実現に向け全力で取り組んでいます。



編集方針

本報告書は、当社のISO14001適用事業所において、経営コンセプト「おいしい笑顔をお届けします」を実現するための事業活動を通じた社会・環境取り組みの情報を提供することを目的に発行しています。

報告対象範囲

シマダヤグループのうち、シマダヤおよびISO14001適用事業所である工場を報告範囲としています。

対象期間

2019年4月から2020年3月(活動については直近のものも含む)

発行

2020年9月発行



- P3~4 シマダヤグループの事業
- P5~6 トップメッセージ
- P7~8 **特集** 安全・安心でおいしい商品をお届けするために
~全グループ工場でFSSC22000を認証取得しました~
- P9~10 シマダヤグループ行動規範の実践
 - 規範1 安全な商品とサービスを提供します
 - 規範2 お客様の満足と安心が得られるように最大限の努力をします
 - 規範3 法令を遵守し社会的理念に則った企業活動を進めます
- P11~15 ● 規範4 地球環境問題に積極的、自主的に取り組みます
- P15~16 ● 規範5 安全で働きやすい職場環境の確保に努めます
- P16~17 ● 規範6 よき「企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います
- P18 第三者意見

ウェブサイトのご案内

シマダヤのウェブサイトでは、本報告書をダウンロードいただける他、商品に関する情報など様々な関連情報をご紹介します。

<https://www.shimadaya.co.jp>

めんのシマダヤ 検索



シマダヤは、1931年の創業以来、めん製造業界のリーディングカンパニーとして「めん」を通して日本の食文化の発展に広く貢献してまいりました。私たちが独自の技術を磨き、安全で安心かつ魅力ある商品を作り続けるのは、お客様の「おいしい笑顔」が見たいからです。

これからもお客様の健康で豊かな食生活に一層貢献できる企業でありたいと願い、皆様に愛され信頼される「シマダヤ」を目指して、社員一丸となってその実現に向け全力で取り組んでまいります。



シマダヤのCIマーク

シマダヤのCI(コーポレートアイデンティティ)マークは、「お客様とシマダヤをおいしい笑顔で結ぶ」という意味を表しています。2つの円は、お客様とシマダヤの「心のクロスコミュニケーション」を意味しています。中央の笑顔は、「作る喜び・食べる喜び・お客様の笑顔」を表現しています。

シマダヤグループ行動規範

<p>規範 1 安全な商品とサービスを提供します</p>	<p>12 つくば市 つかう未来</p>	<p>規範 4 地球環境問題に積極的、自主的に取り組みます</p>	<p>7 持続可能な開発目標</p> <p>12 つくば市 つかう未来</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>14 海の豊かさを守ろう</p>
<p>規範 2 お客様の満足と安心が得られるように最大限の努力をします</p>	<p>3 持続可能な消費と生産</p> <p>12 つくば市 つかう未来</p>	<p>規範 5 安全で働きやすい職場環境の確保に努めます</p>	<p>5 性別平等</p> <p>8 働きがいと経済成長</p>
<p>規範 3 法令を遵守し社会的理念に則った企業活動を進めます</p>	<p>5 シンガポール 持続可能な未来を創ろう</p> <p>16 平和と公正な社会を築こう</p>	<p>規範 6 よき「企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>11 持続可能な都市とコミュニティ</p>

事業内容

シマダヤは、**家庭用事業**、**業務用事業**の分野で事業を展開しています。お客様のニーズや用途にあった商品を幅広く取りそろえ、より多くのお客様へ「おいしい笑顔」をお届けするため、おいしく楽しい食シーンをご提案しています。



家庭用事業

うどん・そば・中華麺・焼そばなど、バラエティ豊かな一般家庭用麺(チルド麺、冷凍麺)を主にスーパーマーケット・小売店・コンビニエンスストアなどで販売しています。



「流水麺」そば

さっと水でほぐすだけで食べられる、ゆでる必要のないそばです。風味豊かなそば粉を使用し、のどごしと歯切れの良さ、そばの味わいが楽しめます。



「健美麺」

食後の血糖値上昇を抑えるうどん 1食
機能性関与成分としてアルギン酸カルシウムを配合し、血糖値を気にされる方も安心して美味いうどんをお召しあがりいただけます。



冷凍 「健美麺」

食塩ゼロ稲庭風うどん 3食
国産小麦粉を使用した、のどごしのよさと強いコシが特長の、からだにやさしい食塩ゼロのうどんです。凍ったまま半分に割って使える<ミニダブル>製法です。

業務用事業

うどん・そば・ラーメン・パスタを中心とした冷凍麺を、従業員食堂や学校給食、高速道路のサービスエリアをはじめとした外食産業、惣菜や持ち帰り弁当などの中食産業などに向け販売しています。からだの調子を整える食材を3品以上使用した「麺テナンス®」や1食で1日の必要野菜摂取量の1/2以上を摂れる「ベジ麺®」をお客様にご提案しています。

北海道産そば使用 石臼挽きそば<ミニダブル>

石臼を用いて製粉したそば粉を使用した、そばの香りと甘みが味わえる、なめらかで歯切れの良いそばです。そばの生産量が日本一の北海道産そばを使用しています。



「真打」もみ打ちラーメン<ミニダブル>

独自のもみ打ち製法により、ラーメン専門店のひと手間の「手もみ」を再現した起伏のある麺形状で、スープの絡みの良さ、コシとなめらかさを味わうことができます。



また、国内だけでなく、東南アジア、北米、EU、オセアニア等の国や地域には外食市場向けの冷凍麺、ロングライフ麺を輸出しています。

輸出用3食しょう油ラーメン



輸出用冷凍うどん5食<ミニダブル>



シマダヤグループ概要 ISO14001適用事業所(2020年9月現在)



代表取締役社長
木下 紀夫

シマダヤ株式会社

設立 1949年3月
資本金 10億円
代表者 代表取締役社長 木下 紀夫
従業員数 324名(2020年3月末時点)
事業内容 種類及び関連食品の販売
所在地 東京都渋谷区恵比寿西1-33-11
売上高 346億円(2020年3月期)
事業所数 本社1、支店3、ロジスティクスセンター1、開発研究所1
登録日 2004年7月16日



シマダヤ関東株式会社



代表取締役社長
相澤 享
「安全・安心」を重点課題とし、環境貢献への取り組みを実行します。

本社(東京都昭島市)
工場名 ISO14001 登録日
●東京工場(東京都昭島市) ●2004年 7月16日
●松戸工場(千葉県松戸市) ●2009年10月16日
●群馬工場(群馬県前橋市) ●2011年 2月28日
●前橋工場(群馬県前橋市) ●2010年 2月23日
●埼玉工場(埼玉県深谷市) ●2010年11月30日

シマダヤ西日本株式会社



代表取締役社長
鈴木 正幸
「安全・安心」な「正品」を安定供給できるよう、日々努力してまいります。

本社(滋賀県近江八幡市)
工場名 ISO14001 登録日
●滋賀工場(滋賀県近江八幡市) ●2012年 2月28日
●兵庫工場(兵庫県宍粟市) ●2015年12月21日
●岐阜工場(岐阜県安八郡) ●2009年10月16日

シマダヤ東北株式会社



代表取締役社長
紺野 賢一
「安全・安心」な商品作りを最重要課題と位置づけ、日々努力を続けております。

本社(宮城県大崎市)
工場名 ISO14001 登録日
●古川工場(宮城県大崎市) ●2009年 3月23日
●郡山工場(福島県本宮市) ●2009年 3月23日
●仙台工場(宮城県仙台市) ●2015年12月21日

経営コンセプトに立ち返り コロナ禍による変化を 乗り越えていきます

気候変動が大きな影響を及ぼす中 価格改定と一部事業譲渡を実施

2019年度を振り返ると、令和への元号改正、4月・5月の大型連休、消費税増税など多くの動きがありましたが、シマダヤグループにおいては、長雨から冷夏、台風の多発、暖冬へと続いた気候変動が大きな影響を及ぼしました。第4四半期に入ると、新型コロナウイルス感染症が国内にも広がってきましたが、3月を期末とする当期業績への影響はまだ大きくありませんでした。

気候変動以外の業績要因では、近年の原材料価格高騰に対応するため、2019年3月にほぼ10年ぶりに実施した価格改定などにより、利益改善をもたらしました。また9月に旧シマダヤ関東(株)八潮工場(埼玉県)を事業譲渡し、デリカ事業から概ね撤退したことにより、売上高が減少した一方で、収益性が向上しました。結果として2019年度の業績は減収・増益となりました。

販売面においては、健康価値商品として市場に投入した「健美麺」ブランドが好調に推移し、シェアを伸ばした他、「もみ打ち」生冷し中華「鉄板麺」などのブランド商品が売上を拡大しました。

コロナ禍による市場変化を受け 事業構造の転換へ

現在、足もとの状況においては、新型コロナウイルス感染症による影響が大きく拡がり、事業環境を一変させています。3月以降、外出自粛・在宅勤務の導入などによる「巣ごもり消費」の増加を受け、家庭用チルド麺・冷凍麺の需要が急拡大する一方、外食産業や商業施設の営業縮小などにより、業務用冷凍麺の需要は大幅に減少しました。

当社では、同感染症への危機管理対応として「緊急事態対策本部」を設置し、①感染防止策の実施 ②事業継続計画(BCP)の遂行 ③業績悪化への対応の3点を目的とする体制を敷きました。

同感染症の先行きを見通すことは、極めて困難ですが、おそらく早期の収束は見込めず、生活上の制約も当面続いていくものと思われます。シマダヤグループにおいては、業務用商品の需要減少を受け、家庭用商品を中心とする事業構造への転換が求められる状況にあります。社内では、これを前提とした徹底した経費削減策を実行しています。

重点テーマとして注力してきた健康・簡便・個食の「3K」ニーズにも変化が生じています。在宅により家族で食事をする機会が増え、個食ニーズが減退していることなどから、健康・簡便・高品質・経済性・買い置き「5K」をコロナ禍による新たなニーズと捉え、家庭用商品の強化を図る方針です。

代表取締役社長

木下 紀夫



シマダヤグループは 社会・環境活動に引き続き注力

コロナ禍による市場の激変・事業構造の転換という重大な経営局面においても、シマダヤグループが社会・環境活動に取り組み続けることに変わりはありません。

シマダヤグループは「中期環境目的・目標(2019年度～2021年度)」にもとづき、「①廃棄麺(スープ、具材、原料を含む)の削減と有益な環境影響(省エネ、省資源等)をもたらす活動の実行」「②有益な環境影響(健康、簡便、安全・安心等)をもたらす商品の開発と拡売」「③有益な環境影響(業務の生産性向上、環境教育の推進、コンプライアンスの徹底等)をもたらす活動の実行」の重点テーマごとに目標を設定し、本部単位で達成に向けた取り組みを行っています。2019年度は多くの目標項目を達成し、社会・環境活動の社内浸透に手応えを感じました。

しかし、廃棄麺の削減状況が必ずしも自助努力だけでは解決しない部分もあります。次期の目的・目標においては、こうした課題を踏まえ、検討していく必要があります。

品質とブランド力をこれからの武器に 差別化につながる価値を創出

私たちは、SDGs(国連の採択による2030年に向けた持続可能な開発目標)に企業として貢献していく姿勢を明確化すべく、「シマダヤグループ社会・環境報告書2020」において、当社の取り組みをSDGsの該当テーマに紐付けました。事業活動を通じた社会課題の解決について、従業員の意識を高めながら、一人ひとりの主体的な行動を促していく考えです。

コロナ禍という大きな変化に対応していく上で、シマダヤグループは自らの事業構造を転換しながらも、「おいしい笑顔をお届けします」という経営コンセプトに立ち返り、日本国内で麺食文化の維持・拡大を目指すという原点に立ち返ります。これからのシマダヤグループの取り組みにおいて有効な武器になるのは、品質とブランド力に他なりません。シマダヤというコーポレートブランドとプロダクトブランドが持つ信頼感・安心感を活かし、差別化につながる価値を作り上げていくことで、私たちはこの難局を乗り越え、多くの人々に喜ばれる企業、社会に必要とされる企業として存続してまいります。

安全・安心で おいしい商品をお届けするために

～全グループ工場でFSSC22000を認証取得しました～

FSSC22000とは

FSSC22000 (Food Safety System Certification 22000の略)とは、食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000と、ISO22000の前提条件プログラムの一部を具体化したISO/TS 22002-1及び追加要求事項を統合したもので、食品の安全性確保の仕組みとしてGFSI(Global Food Safety Initiative)が承認したスキームです。

Food Safety System Certification 22000の略
= ISO22000 + ISO/TS22002-1 + 追加要求事項

食品安全
マネジメント
システム
(国際規格)

食品製造に
おける食品
安全のための
前提条件
プログラム

FSSC22000
認証システム
文書(パート)に
記載

FSSC22000認証取得までの流れ



FSSC22000 認証取得状況

シマダヤグループ工場では、お客様やお取引先様の信頼向上、食の安全・安心の推進によるシマダヤブランドの強化を目的として、2014年1月からFSSC22000認証取得に向けての取り組みを開始しました。2015年3月のシマダヤ西日本(株)岐阜工場を筆頭に、2020年2月にはシマダヤ西日本(株)兵庫工場で認証取得し、全グループ工場が登録されています。(2020年9月現在)

新たに認証を取得しました

お客様に「おいしい笑顔」をお届け出来るように全従業員一丸となって安全・安心のレベルアップに取り組んでまいります



シマダヤ東北(株)
仙台工場
品質管理室
小泉 信二

HACCPをベースとしたFSSC22000認証取得に向けての準備は、外部コンサルタントを入れずにスタートしました。初めて見る食品安全マニュアルや食品安全のための前提条件 (PRP) は内容の解釈に戸惑いましたが、品質保証統括部や、既に認証を取得しているシマダヤ東北(株)古川工場・郡山工場の品質管理室に指導・支援を頂きながら全従業員一丸となって取り組み、2019年12月に認証取得しました。文書の作成や設備改造(オイルレスコンプレッ

サー・ドックシェルターエアーカーテン・手洗い設備の増設等)等に取り組む中、特に苦労したのは従業員への教育です。基礎勉強会から始まり、HACCPの再教育、FSSC22000に対応したルールの改訂等に伴う落とし込みを実施し、教育を進めました。FSSC22000Ver.5へと移行し、9月には更新審査が控えておりますが、今後もお客様に「おいしい笑顔」をお届け出来るようにレベルアップを図り取り組んでまいります。

認証取得を維持しています

さらなる食品安全の維持向上に努め、「お客様に安心して召しあがっていただける」製品の供給に取り組んでまいります



シマダヤ関東(株)
松戸工場
品質管理室
鈴木 好三

「食の安全」に対するお客様の要求に応えるため、「安全・安心」な製品を安定して供給することに取り組んでいます。具体的には食品が安全である理由を各工程で具体的かつ科学的に明確にしています。また、「食品安全方針」を確立し、定期会議にて日々の検証活動結果や、食品安全目標の進捗状況を各課発表し、PDCAを回しています。さらに、マネジメントレビューへのインプット及びアウトプットを受け、継続的な改善のために必要な対応

を実施しています。2020年度は、FSSC22000Ver.5の移行による規格の理解や、チームメンバー・全従業員への教育を実施する等、新たな気持ちで日々奮闘中です。さらなる食品安全マネジメントシステムの維持向上により、「お客様に安心して召しあがっていただける」製品の供給を工場が一丸となり取り組んでまいります。

シマダヤグループ FSSC22000 認証取得工場

(2020年9月現在)

シマダヤ西日本株式会社
本社所在地：滋賀県近江八幡市

- ⑥ 滋賀工場 (滋賀県近江八幡市)
- ⑦ 兵庫工場 (兵庫県宍粟市)
- ⑧ 岐阜工場 (岐阜県安八郡)

シマダヤ東北株式会社
本社所在地：宮城県大崎市

- ⑨ 古川工場 (宮城県大崎市)
- ⑩ 郡山工場 (福島県本宮市)
- ⑪ 仙台工場 (宮城県仙台市)

シマダヤ関東株式会社
本社所在地：東京都昭島市

- ① 東京工場 (東京都昭島市)
- ② 松戸工場 (千葉県松戸市)
- ③ 群馬工場 (群馬県前橋市)
- ④ 前橋工場 (群馬県前橋市)
- ⑤ 埼玉工場 (埼玉県深谷市)

シマダヤグループ 行動規範の実践

シマダヤグループ行動規範とは、経営コンセプトの「おいしい笑顔をお届けします」の精神を具体的に行動に移す際、守るべき重要な事項を、主にコンプライアンスの観点からまとめたものであり、シマダヤグループのあらゆる事業活動において優先されます。行動規範はシマダヤグループ従業員に携帯用カードとして配布され、日々の活動で実践しております。また、当社では事業活動のなかでSDGs(持続可能な開発目標)への貢献に関連する取り組みが行われています。実際にどのような点がSDGsのターゲットの実現に貢献しているのか、当社の行動規範と紐づけてご紹介いたします。



「SDGs(エスディーゼーズ)」とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた、国際社会共通の目標です。SDGsには17のゴールがあり、さらに、それを実現するために必要な169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



規範 1 安全な商品とサービスを提供します



シマダヤの品質に対する考え方

シマダヤグループでは、「シマダヤ品質基本方針」に基づき、日々の活動に取り組んでいます。当方針では品質を商品品質としてだけでなく、組織や活動の質と定義しています。社員一人ひとりが「品質」を意識し、お客様への安全な商品とサービスの提供を何より優先することが重要であると考えています。



安全・安心な製品づくり

シマダヤグループ工場では、安全・安心な製品をお届けするために、異物除去装置の導入・運用といったハード面だけでなく、従業員教育を通じた衛生意識の向上等、ソフト面の取り組みも重要と捉えて取り組んでいます。

安全・安心で安定した「良品」を生産します



シマダヤ西日本(株)
滋賀工場
品質管理室
北田 暢子

滋賀工場では、商品の信頼を高めるため連携した管理レベルの向上に取り組んでいます。また、国際規格であるFSSC22000の認証を取得し、柱となる食品安全マネジメントシステムに従い安定した「良品」を生産することは廃棄やエネルギーの削減にも繋がっています。日々報道されている様々な情報に目を向け、リスクに対応する手段を構築し、食品衛生及び従業員の安全な職場環境づくりに努めてまいります。

規範 2 お客様の満足と安心が得られるように最大限の努力をします



「新たな加工食品の原料原産地表示制度」への対応

食品表示基準の改正により「新たな加工食品の原料原産地表示制度」が開始され、シマダヤ(株)では2020年春夏商品より、パッケージに使用した原材料に占める重量割合が最も高い原材料の原産地(対象が加工原材料の場合は基本的に製造地)の表示を順次開始しております。

また、お客様により適切で正確な情報を発信するために、家庭用商品の主原料の産地情報をホームページに掲載しております。



お客様の声への対応～電子レンジ調理方法の記載～

シマダヤグループでは、お電話、お手紙、メール等で寄せられるお客様からの様々なお問い合わせに対し、迅速かつ正確にお応えしています。お客様からいただいた貴重な声は、日報やお客室相談室通信により関連部門に伝え、より良い商品づくりに活かしています。2019年は、簡便志向に伴う電子レンジ調理の要望を受け、ゆで麺類のパッケージ裏面の「おいしい召し上がり方」に電子レンジ調理の方法を記載しました。

お客様の情報を正確に伝えていきます



お客様相談室
秋山 由貴子

お客様相談室には販売店や、栄養成分等様々なお問い合わせが寄せられます。その中でも「調理方法」に関する問い合わせは多く寄せられており、パッケージの表示は、重要な要素であると日々痛感しています。電子レンジ調理に関するお問い合わせは、年間約100件と毎年増加傾向だったため、パッケージに記載されたことでお客様のニーズに応えられたと思います。現在、お客様の声は、毎日「日報」として、社内に配信しておりますが、今後も正確な情報をお伝えできるよう、努めてまいります。



パッケージ裏面(例)

健康志向に応える商品づくり

生活習慣病患者数の増加や平均寿命と健康寿命の差、国民医療費の増大等の社会問題に対し、シマダヤは「美味しく食べて健やかな食生活をサポートします」をコンセプトに健康志向に応える商品づくりに取り組んでいます。食塩ゼロや糖質カット、食後の血糖値上昇を抑える機能性表示食品等、家庭用・業務用あわせて23品を展開しています。(2020年9月現在)



「健美麺」
食後の血糖値上昇を抑える
稲庭風細うどん3食

規範 3 法令を遵守し社会的理念に則った企業活動を進めます



リスクマネジメントの推進

シマダヤグループでは、企業として存続・発展するために、その障壁となるリスクを正確に把握し、危機発生時の損失を極小化するリスクマネジメントに取り組んでいます。シマダヤグループ全体で、コンプライアンスを含めて想定されるリスクを洗い出し、リスクの発生要因を排除・削減するための実行計画を策定し、取り組みを推進しています。

シマダヤグループ内部通報制度

シマダヤグループでは、コンプライアンス(法令違反、ハラスメントの防止等)の徹底を図るため内部通報制度を設け、各社「内部通報規程」に則り運用しています。また、内部通報制度を機能させるために、社内ネットワークでの連絡先の発信や研修等での周知、携帯カードの配布、ポスター掲示等を行い、従業員への周知徹底を図っています。

規範 4 地球環境問題に積極的、自主的に取り組みます



シマダヤグループ環境マネジメントシステム

シマダヤグループでは、「シマダヤグループ環境基本方針」のもと中期環境目的・目標を掲げ、それを達成させるために、各部内で業務に沿った目的・目標を設定し取り組んでいます。

シマダヤグループ環境基本方針

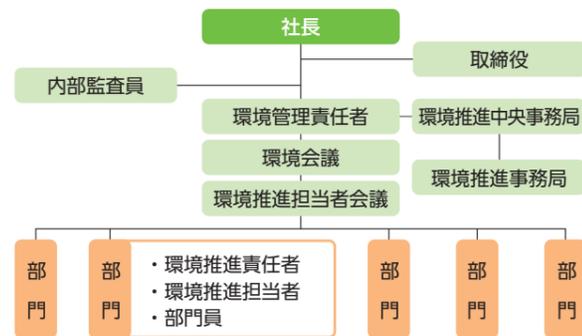
環境理念

小麦とそばと塩と水。「めん」は自然の恵みそのものです。シマダヤグループは、自然環境と企業活動の調和の重要性を認識し、めんを中心とする事業活動を通して環境保全に取り組み、健全で豊かな社会の実現に貢献します。

環境行動指針

- 1.環境関連法規の遵守**
社会の一員として環境保全に取り組み、環境関連の法規制その他の要求事項を遵守します。
 - 2.資源、エネルギーの有効利用**
資源、エネルギーの節約、有効利用に取り組みるとともに、廃棄物の削減、再資源化により環境への負荷の低減に努めます。
 - 3.継続的な環境改善**
事業活動のあらゆる面において環境に配慮し、絶えず見直し、継続的な改善に努めます。
 - 4.環境保全意識の醸成**
情報収集及び教育を積極的に行い、従業員一人ひとりの環境に対する意識の向上に努めます。
 - 5.情報の公開**
環境基本方針及び環境保全活動に関する情報を広く社内外に開示します。
- 2004年1月19日制定
2008年6月25日改訂
シマダヤ株式会社 代表取締役社長 木下 紀夫

環境推進体制



活動の推進役と役割

全社の推進役	社長	全社の活動の最高責任者 (シマダヤの代表取締役)
	環境管理責任者	全社の活動の責任者
	環境推進中央事務局	環境管理責任者の補佐
部門の推進役	環境推進責任者	部門活動の責任者 (活動の単位の部門長、グループ会社は工場長)
	環境推進担当者	部門活動のリーダー

※部門単位で活動を推進しており、環境マネジメントシステム上では、グループ会社は工場単位で1つの部門として活動しています。

シマダヤグループ中期環境目的方針 (2019年度～2021年度)

グループ全体方針

「安全・安心、環境に配慮した商品で、おいしい笑顔をお届けします」
～一人ひとりが、仕事や生活の中で環境のことを考えた行動をします～

生産物流本部分針

廃棄物(スープ、具材、原料を含む)の削減と有益な環境影響(省エネ・省資源等)をもたらす活動をします

営業本部、開発研究所方針

有益な環境影響(健康、簡便、安全・安心等)をもたらす商品の開発・拡売をします

管理部門方針

有益な環境影響(業務の生産性向上、環境教育の推進、コンプライアンスの徹底等)をもたらす活動をします

中期環境目的・目標 2019年度取り組み報告

重点テーマ 1

廃棄物(スープ、具材、原料を含む)の削減並びに有益な環境影響(省エネ・省資源等)をもたらす活動の実行

中期環境目的	2019年度実績
工場の廃棄物(スープ・具材・原料を含む)の削減 (2018年度原単位比で27%削減)	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度は2018年度原単位比9%削減に取り組み、目標達成となった。 各工場でのプロジェクト活動推進や、メンテナンス活動による設備トラブル減少、従業員教育による人的トラブル減少が削減に繋がった。
SLC及び冷凍倉庫の廃棄物(スープ・具材を含む)の削減 (2018年度重量比37%削減)	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度は2018年度比12%削減に取り組み、目標達成となった。 生産部門と営業部門でのきめ細やかな情報共有や見込精度の向上、在庫の販売消化促進が削減に繋がった。
有益な環境影響(省エネ・省資源等)をもたらす活動の実行	<ul style="list-style-type: none"> 物流効率化や段ボール寸法の見直しによりCO₂を削減した。 新たなシステム導入による営業部門の効率化支援や業務の見える化による業務時間削減に取り組み、紙の使用量や業務時間を削減した。

重点テーマ 2

有益な環境影響(健康、簡便、安全・安心等)をもたらす商品の開発・拡売

中期環境目的	2019年度実績
有益な環境影響(健康、簡便)をもたらす商品の拡売によるシマダヤブランドの向上	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型商品の拡売に取り組みしたが、天候要因等により目標未達成となった。 簡便、健康価値商品のコーナー化による露出度アップや、商談での価値提案を実施した。
有益な環境影響(健康、簡便、安全・安心等)をもたらす商品の開発・拡売によるシマダヤブランドの向上	<ul style="list-style-type: none"> 機能性表示食品を開発し、店頭でのPR活動としてセリングを実施した。 「流水麺」の品質向上や機能性表示食品の開発等に取り組んだ。 生産工場における異物検査装置等の運用状況の確認を継続的に行った。

重点テーマ 3

有益な環境影響(業務の生産性向上、環境教育の推進、コンプライアンスの徹底等)をもたらす活動の実行

中期環境目的	2019年度実績
有益な環境影響(業務の生産性向上、環境教育の推進、コンプライアンスの徹底等)をもたらす活動の実行	<ul style="list-style-type: none"> 業務上必要なフォーマットや手順書の見直し、新たな運用制度の周知を実施し業務の生産性を向上した。 紙媒体で保管している文書類の整理を実施し、電子化及び不要書類を削減した。

廃棄物削減の取り組み

重点な課題である廃棄物削減に取り組みました



シマダヤ関東(株) 東京工場 製造部 富澤 健太郎

廃棄物の削減は、製造工場として重要な課題と認識して取り組んでまいりました。結果として、2019年度は基準年度である2018年度比9%削減目標に対し大きく削減できました。削減できた要因として、保全グループを製造部に設置し、設備保全プロジェクトと協力して計画的に各設備の保全活動を行えたことです。また、製麺工程における基本データである、加水量・麺厚・麺線長・茹で上がり量目等のデータ分析により、軽過量品の削減ができたことが良い結果に結びつきました。引き続き、食品ロスの削減に努めてまいります。

全従業員一丸で廃棄物の削減に努めました



シマダヤ関東(株) 埼玉工場 製造部 金子 哲也

埼玉工場では、廃棄物削減プロジェクトのメンバーを中心に全従業員一丸となり廃棄物の削減に努めています。2019年度は、製麺機器設定値の標準化、軽過量削減対策、検査装置の誤検知防止対策、蒸し工程後の不具合改善等に取り組んでまいりました。また、従業員への共有や教育により意識向上を図ってまいりました。結果として、2018年度から廃棄率を大きく削減することができました。これからも引き続き廃棄物削減の活動を推進してまいります。

環境に配慮した商品開発

～プラスチックトレーの薄肉化・小型化～

シマダヤグループでは、環境に配慮した商品開発を行っています。2019年度は、2食入の生ラーメンや焼そば等で使用されているトレーのプラスチック使用量削減

に取り組み、トレーの薄肉化・小型化によりトレー1枚当たり約31%プラスチックを削減しました。また、CO₂排出量を削減しました。

環境に配慮した商品開発を行っています



研究開発部
(左から) 池田 奨太、大竹 真悟

2食入の生ラーメン、焼そば類計16品のプラスチックトレー薄肉化及び小型化により、プラスチック使用量の削減を実現しました。トレーメーカー・工場・関係部署と連携し、原反及びトレー形状・深さを見直すことで、想定された強度低下・工場内での機械適性・作業性低下の課題を解決し、実用化することができました。同時に、縦型デザインパッケージ商品の店頭陳列時においても収納性を改善することができました。引き続き、包装資材の使用量削減等、環境に配慮した商品開発に努めてまいります。



北海道の味めぐり「時計台」らーめん濃厚醤油味 2食

省エネ・省資源の取り組み

シマダヤグループ工場では、生産活動における省エネ・省資源に取り組んでいます。ハード面では廃熱回収装置等の導入によるガス使用量の削減や設備更新による電力使用量の削減等、ソフト面では従業員教育や生産効率の改善等を実施しています。また、それらの取り組みの効果として、前年度の環境会計を作成し数値化しています。

無駄なエネルギーの抑制に努めています



シマダヤ西日本(株) 兵庫工場 製造課
村上 智信

兵庫工場では、2019年度に実施したチラー設備への散水により電力使用量を削減しました。2020年度はその設備を更新し、さらなる電力の抑制に繋がるよう努力しております。チラー設備以外の大きな必要電力として室内の空調機があり、設定温度や稼働時間も大きな問題となります。その問題を解消すべく、兵庫工場では従業員一人ひとりが使用電力を意識し、無駄なエネルギーの抑制に努め、会社一体となり結果を残せる取り組みを行っています。

●シマダヤグループ2019年度 資源使用量の前年比 (2019年度シマダヤグループ環境会計より)



エコドライブの実践

シマダヤ(株)では、営業活動における環境負荷低減として発進時のふんわりアクセルスタートや一定速度での運転等、エコドライブを実践しています。2019年4月にはドライブレコーダー付テレマティクスを導入し、危険運転(速度超過・急加速・急減速)や長時間アイドリング等があった場合は是正を促し、燃費向上に努めています。また、公共交通機関を利用した営業活動の促進や、ハイブリッドカー・低燃費車の導入により、ガソリン使用量を削減する取り組みを推進しています。



2019年度「社会・環境活動表彰」

2012年度より、従業員一人ひとりの社会・環境活動に対するモチベーションの向上を目的として「社会・環境活動表彰」を実施しています。2019年度の活動においては、グループ全体で35件のエントリーの中から、7件が表彰

されました。シマダヤグループは引き続き、身近な取り組みをはじめ、グループ全体に広がりのある社会・環境活動の活性化を図ってまいります。

●2019年度「社会・環境活動表彰」

表彰者	活動内容
1 名古屋支店	なごや介護の日フェア2019出展による「健美麺」ブランドの認知向上
2 システム部	本社及びSLCの共有スペースへの無線LAN導入及び体制の構築
3 シマダヤ関東株東京工場 製造部	プロジェクト活動による廃棄物・燃料使用量の削減
4 シマダヤ関東株松戸工場 製造一課・品質管理室	計画生産によるガス使用量削減
5 シマダヤ関東株埼玉工場 廃棄物削減プロジェクト	プロジェクト活動による廃棄物の削減
6 シマダヤ西日本株兵庫工場 製造部製造課 設備グループ	チラー水作成電力量の削減
7 シマダヤ東北株郡山工場 技術課	トレー洗浄水の使用量削減

受賞者の声



名古屋支店
齊藤 卓也

なごや介護の日フェア2019に出展し、名古屋支店7名が初めて参加しました。来場者である介護関係者をはじめ、一般のお客様に対して、「健美麺」食後の血糖値上昇を抑えるうどん、そばの試食を行いました。食後の血糖値上昇がなぜ抑えられるのか、なぜこの商品が必要なのかをアピールし、一時は試食提供が追い付かなくなるほどの盛況をいただきました。

この活動を通して一人でも多くのお客様に認知いただき、重要性を知ってもらうきっかけになりました。今後もこのような活動を通して認知拡大に努めていきます。



なごや介護の日フェア2019の様子

継続的な環境教育の実施

シマダヤグループでは、環境マネジメントシステムの理解を深めるため、継続的に環境教育を実施しています。

2019年度は新入社員・中途社員に対し、シマダヤグループの環境取り組みについて説明しました。また、法規

制の要求事項や環境推進担当者の業務を理解するための環境推進担当者研修、内部監査の実施方法・監査ポイントに関する内部監査員研修等を実施しました。

環境法規制の順守

シマダヤグループでは、環境法規制を順守するための取り組みを推進しています。

毎年5月に事業所単位で該当する環境法規制を特定し、「環境法規制等登録簿兼評価票」にまとめています。8月には特定した法規制の要求事項を順守しているか、「順法性チェックリスト」で順守評価を行っています。

また、シマダヤグループ工場では9月に各工場の担当者がグループ内の他工場に訪問し、「環境法規制等登録簿兼評価票」、「順法性チェックリスト」を基に順守できているか監査しています。

環境法規制から逸脱しているときは、即是正対応し、「不適合対応票」に対応記録を残しています。

環境内部監査の実施

シマダヤグループでは、毎年10月～11月に環境内部監査を実施しています。

2019年度は全23部門を対象に内部監査を実施し、各部門が環境目標の達成に向け、事業プロセスと統合した環境取り組みを推進していることを確認しました。一方、環境推進担当者の変更に伴う引き継ぎの不備や環境マネジメント要綱に即した運用面での指摘に対し

ては、各部門で是正するとともに、環境推進担当者・事務局員合同会議にて事例を共有し、グループ全体で改善活動に取り組みました。



ISO14001:2015の認証継続が承認されました

シマダヤグループでは、2003年より環境取り組みを開始し、2004年にシマダヤ(株)と東京シマダヤ(株)(現シマダヤ関東(株)東京工場)でISO14001の登録審査を受け、審査登録されました。その後順次適用事業所を拡大し、2020年9月現在でシマダヤ(株)及びグループ会社3社11工場が登録範囲となっています。

2019年度は11部門を対象にヒアリングや現場確認が行われました。各部門にて適切に対応した結果、不適合

0件・軽微な不適合0件で、ISO14001:2015の登録継続が承認されました。



ISO14001適用事業所はシマダヤグループ概要(P.4)をご覧ください。

規範 5 安全で働きやすい 職場環境の確保に努めます



シマダヤ行動計画

シマダヤ(株)では、仕事と家庭の両立支援及び女性の活躍推進に向けての行動計画を策定し、取り組みを推進しています。

●仕事と家庭の両立支援に向けて

仕事と家庭を両立させられるよう働きやすい職場環境を作ることによって社員が効率よく働くとともに、各人の能力を發揮して充実した生活を送ることを目的とし、行動計画を実施しています。

2019年度は業務の見直しや効率化の推進、有給休暇取得率の向上等により、1人当たりの年間総労働時間を1.5%削減(2018年度比)しました。

計画期間	2018年4月1日から 2021年3月31日までの3年間
目標	計画期間中に生産性を向上させ、1人当たりの年間総労働時間を3%削減(2018年度比)する
進捗状況	2019年度1人当たりの年間総労働時間1.5%削減(2018年度比)

●女性の活躍推進に向けて

女性が継続して就業し活躍できる雇用環境の整備を行うことを目的とし、行動計画を実施しています。

全社員に占める女性の割合25%以上の目標に対し、2019年度は24.3%となりました。また、新卒採用の女性比率は2019年度46.2%となりました。

計画期間	2016年4月1日から 2021年3月31日までの5年間
目標	全社員に占める女性の割合を25%以上とする
進捗状況	2019年度全社員に占める女性の割合24.3%

多様な働き方への支援

シマダヤ(株)では、従業員の多様な働き方を整備するために、必要に応じて規程・規則を見直し、人事関連諸制度を改定しています。2019年度は始業・終業時刻を変更できる時差出勤制度を新たに導入しました。また、2020年4月からは1時間単位で有給休暇を取得できる時間単位

の有給休暇制度の新設や、短時間勤務制度の対象となる子の年齢の引き上げを行いました。さらに、業務効率の向上や通勤時間の減少等を目的に、テレワーク勤務制度を導入しました。

社員教育・研修の実施

シマダヤ(株)では、役職や年次に応じて様々な教育・研修を実施しています。新入社員研修や若手社員研修、昇格者研修等の他、年2回通信教育を開講し、業務に必要な知識やビジネススキルを習得しています。2019年度からは新たにeラーニングによる教育をスタートさせ、

全従業員が職場のハラスメント対応やメンタルヘルスケアについての講座を受講しました。また、対象者や希望者に対しパワー・ハラスメント防止、ファシリテーションスキル、ビジネススキル向上等のコースを開講しました。

ストレスチェックの実施

シマダヤグループでは、従業員に自身のストレスへの気づきを促し、メンタルヘルス不調の未然防止を目的とし、2016年度より1年に1回ストレスチェックを実施しています。また、ストレスチェックの結果、一定水準以上のストレス値となり、医師による面談が必要と判断された従業員から申し出があった場合は、医師との面談を実施しています。



規範 6 よき「企業市民」として 積極的に社会貢献活動を行います



「流水麺」親子クッキング教室の実施

2019年6月1日(土)と6月15日(土)に、お取引先様とともに「流水麺」を使った親子クッキング教室を実施しました。

6月1日(土)には6組、6月15日(土)には7組の親子にご参加いただき、食育知識講座、店内での買い物、「流水麺」を使ったアレンジメニュー作りを行いました。

火を使わないで調理できる「流水麺」は大変好評で、いい思い出になりましたとの言葉をいただきました。



親子クッキング教室の様子

流しそうめんの実施

2019年7月23日(火)にお取引先様の夏祭りが実施され、シマダヤ(株)は茹でずに水でほぐすだけで食べられる「流水麺」そうめんを使った「流しそうめん」で参加しました。大人から子どもまで約150名にご参加いただき、「流水麺」そうめんの簡便性や美味しさのご評価をいただきました。



流しそうめんの様子

子ども参観の実施

2019年8月20日(火)、シマダヤ(株)のロジスティクスセンターに勤務する社員の子どもを対象に、「子ども参観」を実施しました。

ロジスティクスセンターの社員3名とその子ども5名の計8名が参加し、親子で出社する通勤体験から始まり、うどんの手打ち製麺体験や名刺交換の練習、職場見学等を行いました。また、ロジスティクスセンターならではの体験として、商品が保管されている冷蔵倉庫の見学を行いました。



冷蔵倉庫見学の様子



子ども参観に参加しました 業務部 小菅 和義

ロジスティクスセンターの子ども参観に参加し、冷蔵倉庫及び職場見学、手打ち製麺体験を行いました。冷蔵倉庫見学では沢山のシマダヤ商品を見ながら、また寒さに耐えながら、働く方々の姿を見学しました。職場では、名刺交換の練習等を行い、親の働く姿などを見ることができ、とても充実感のある子どもの姿が印象的でした。

地域小学校の工場見学受け入れ

シマダヤグループでは、地域小学校の工場見学を継続的に受け入れています。2019年度はシマダヤ関東(株)東京工場で計12校822名様、シマダヤ東北(株)郡山工場で計2校85名様の工場見学受け入れを実施しました。日頃食べている麺の製造現場を見学でき、貴重な体験ができたことと評価いただきました。



工場説明の様子



製造現場見学の様子

インターンシップの受け入れ

シマダヤグループ工場では、各地域の学生のインターンシップを継続的に受け入れています。実際に工場の製造工程に入り、それぞれの設備の説明や、段ボールのパレット積み、箱詰め等の実地研修を行いました。また、

品質管理や総務等、製造現場以外も学んでいただきました。従業員と同じ作業を行う体験を通して、働くことへの考え方を養っていただくとともにシマダヤグループの事業内容を理解していただきました。

地域清掃活動の実施

シマダヤグループでは、地域貢献及び環境意識の向上として事業所周辺の清掃活動を継続的に実施しています。開発研究所・名古屋支店・シマダヤ東北(株)仙台工場では月1回、ロジスティクスセンターでは2週間に1回、シマダヤ東北(株)古川工場では年1回実施しています。また個人やグループでも地域の清掃活動に参加し、地域社会に貢献しています。



河川の清掃を実施しています シマダヤ東北(株)古川工場製造部 仙石 光一

古川工場では、毎年4月に河川の清掃を近隣の方と一緒にしています。この時期は田植え前のため一旦河川の放流が少なくなり清掃作業をやりやすい時期です。約2時間かけて、川にたまった砂やゴミをスコップを使用してすくい上げます。今後も継続して近隣の方と共に実施し地域社会に貢献してまいります。

第三者意見



博士(総合政策)、サステナビリティ消費者会議代表
古谷 由紀子氏

プロフィール

- 博士(総合政策)、サステナビリティ消費者会議代表、中央大学経済研究所客員研究員(2019年～)。(一財)CSOネットワーク代表。
- 企業の品質、コンプライアンス、デジタルトラスト、サステナビリティ等委員会の社外委員
- 消費者庁、総務省、経済産業省等の審議会や検討会に参加。
- 主な著作物には、「消費者志向の経営戦略」芙蓉書房出版(2010年)、「現代の消費者主権」芙蓉書房出版(2017年)、「企業の消費者教育の意義と責任」日本経営倫理学会(2017年)、「『持続可能な消費』を進めるために」企業と社会フォーラム(2017年)など

新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会・経済を一変させました。今年の社会・環境報告書では、貴グループが、事業構造の転換、社会・環境活動に引き続きの注力、行動規範と紐づけたSDGsに貢献する取り組み、そして、全工場でFSSC22000の認証を取得し、安全・安心でおいしい商品への努力の継続などを確認しました。これらの取り組みに関連して、貴グループの社会・環境課題への取り組みについてコメントいたします。

コロナ禍の事業構造の転換について

貴グループではコロナ禍による市場構造の変化を受け、従来、重点テーマとしてきた「健康・簡便・個食」の「3K」ニーズから、「健康・簡便・高品質・経済性・買い置き」の「5K」を新たなニーズとして捉え直しています。コロナ禍による消費者の暮らしの変化は商品ニーズの変化を生み、その対応は消費者にとっては望ましいものですが、消費者の暮らしの変化は商品ニーズのみにとどまりません。たとえば、在宅での食事が増えると、健康に配慮した食事の仕方やメニューづくり、保存や廃棄の問題、食品ロスの増加などが起きます。そこで商品のニーズの変化のみならず、背景にある暮らしの変化に伴って発生する「困りごと」への対応が必要ではないでしょうか。これらの取り組みは、貴グループの事業構造の転換を強固なものにしていけると考えられます。

シマダヤグループ行動規範に沿ったSDGsの取り組みについて

これまで継続して社会・環境活動にも取り組まれていますが、今年は事業活動のなかでSDGsへの貢献を行動規範と紐づけて

整理しています。これらは従業員の日々の主体的活動の目安にもなり、SDGsの取り組みが事業のなかで確実に進展していくことになるでしょう。

次の段階として、貴グループが重点的に取り組まれるSDGs、またその背景にある問題の現状や意義、さらにはそれがどのような変化を生んだかなどを示していくことでより効果的で信頼される取り組みになると思います。

持続可能な社会に向けた、さらなる取り組みへの期待

貴グループでは、さまざまな社会・環境課題、たとえばプラスチックの使用削減、省エネ・省資源などに取り組み、大きな成果をあげていますが、世界では脱プラスチックや気候変動への具体的対策への動きが加速しています。SDGsの目標13は「気候変動に具体的な対策を」となっています。このような社会・環境における問題の本質的な理解・実践や世界の動向にも注目して取り組むことが期待されます。

また、持続可能な社会に向けた取り組みは企業のみならず消費者もまた当事者として重要であり、企業として消費者の持続可能な消費を促進する活動を期待します。

第三者意見を受けて

古谷様には、今年も貴重なご意見を頂き厚く御礼申し上げます。2019年度はシマダヤグループ中期経営計画第2ステージの3か年に合わせ、1年目の中期環境目的・目標の達成に取り組み進捗させてまいりました。年度末からは新型コロナウイルスによる全世界への感染影響が急速に大きくなり、当然のごとく当社グループの事業活動はこのコロナ禍による今後の大きな変化に向き合っているかばなりません。ご指摘の通り「困りごと」への対応可能となる事業構造の転換も進めなければならないと認識しております。この厳しい環境下において今期も「安全・安心」でおいしい商品をお届けするために社会・環境活動に取り組んでまいりますが、本報告書にありますように「シマダヤグループ行動規範」をSDGsと関連付けて意識した活動により、持続可能な社会に向けた取り組みをステークホルダーの皆様と向き合っていくと考えております。



シマダヤ株式会社
専務取締役 人事総務部長
(環境管理責任者)
相馬 紳一郎